

研修名 発達支援リーダー研修2

平成29年9月26日（火）10:00～16:00

講演 「特性のある子どもへの支援スキルの習得」

講師 花ノ木医療福祉センター 弓削 マリ子 氏

1 講演要旨

子どもの行動への理解

～困っている子どもを支援し、子どもの自己肯定感を育むために～

1) 子どもの行動の背景

楽しい集団生活の中で育まれる「生きる力」

＝子どもの「生きる力」を育む保育

- ① どの子どもも、理解して楽しく積極的に参加できる。
- ② 活動を通して、子どもの肯定感が育まれる。

2) 行動のアセスメントの手順

子ども理解のために行動を見る→環境・状況把握が必要

子ども理解（評価）の3つの視点

- ① 発達プロフィールを把握
- ② 気質・特性・体質・健康状態への気づき
- ③ 環境（周りの状況：人・場所・物・時）を点検

発達の評価・・・身近に活用できる発達検査を利用する手もある。

- ① 移動運動
- ② 手の運動（操作）
- ③ 基本的習慣
- ④ 対人関係（社会性：対大人）
- ⑤ 発語（言語表出）
- ⑥ 言語理解

その中で、相手の心に気づくことが難しい。

3) 遊びの観察で子ども理解を深める

遊びの観察方法として

- ① 一人の子どもの遊び方を断続的に見る。
- ② 同じ玩具の遊び方を、集団について横断的に見る。

保育の合間に、できるだけ1対1の時間を持つようにする。

（今まで見えなかった能力・長所・困り感・苦手に気づくきっかけになる）

“好ましくない行動”こそが子どもを理解するもとになる。

4) よくみられる行動上の問題とその背景

気になる行動について、子ども側の要因と環境の要因と出していく。

その結果を見ながら、子どもにあった環境を探す。

子どもが困ることを減らすために、その場でする行動・今後の対応を工夫するために原因を推察・対応の工夫をしていくことが大切。

5) グループディスカッション

事前に提出した事例を項目ごとに分かれて、グループで支援の方法について話し合う。

2 感想

集団での生活では、どうしても“みんなと一緒に”と言うことが中心となってしまう、気持ちの切り替えが苦手な子どもにとっては苦痛に感じるが多くなっているのではと思う。かといって、その子どもに合わせてずっと戸外で遊んだりということは現実難しい。その子どもにとっても集団から離れていることが当たり前となってしまうのはよくないとも思う。そのときの気持ちを汲み取ってあげ、そこでどう次の活動につなげていけるかを知っていくことが重要だと感じた。その方法を探すのに大切なのは、講師の先生がおっしゃっていた“今、その子が何をしたいのか考えてあげること”だと思う。保育をしていく上で、支援の必要あるなしに関わらずその子どものことをよく知っていくことは大切だと言うことを改めて感じた。午後のグループワークでは、実際に担当しているクラスの子どもの事例に対して客観的な意見を聞くことができよかった。この話し合いでの結果を基に、保育の中でも絵カードを使うなどの工夫をしていきたい。

(記録 福知山丹陽保育園 横田 ゆい)